猪高の森自然観察だより　７月号

定例観察会

開催日時:2022 年 7 月 24 日(日)　9:30～12:00

天候:晴　　気温:最低 22.8℃、最高 33.6℃(名古屋に於いて)

テーマ：セミとトンボ・夏の花と虫

参加者構成：一般 18 名（内 NACS－J 指導員 2 名）

コース：森の集会所　→　シダレザクラの里　→　こもれび池　→　ハンノキ湿地→　井堀の棚田　→　井堀下池　→　森の集会所

なごや生物多様性サマースクール 2022

開催日時：2022 年 7 月 31 日（日）　9：00～11：00

天候：晴　　気温：最低 26.5℃、最高 36.2℃（名古屋に於いて）

テーマ：猪高緑地の水の生き物観察

参加者構成：小学生　12 名（抽選）倍率 10.7 倍（スタッフ１１名：多様性センター含む）

開催場所：猪高緑地　すり鉢池

【定例観察会】

梅雨明けが６月２７日に宣言された後、５日間ほどは真夏日や猛暑日が続き、そのあとは不安定な気候が続いています。まるで、戻り梅雨のようで、記録的な雨量が各地で観測されています。

●天候不良な日が続いているためか、セミの声がいつもより少ないように感じます。

これは、６月３０日に自宅（守山区）近くのコンクリートの壁で見たクマゼミの羽化、午後９時ごろの様子です。

この頃は、まだクマゼミの声は聞こえず、この後も、しばらくは聞いておりません。翌日には抜け殻も何もありませんでした。捕食されたか、誰かに取られたか。

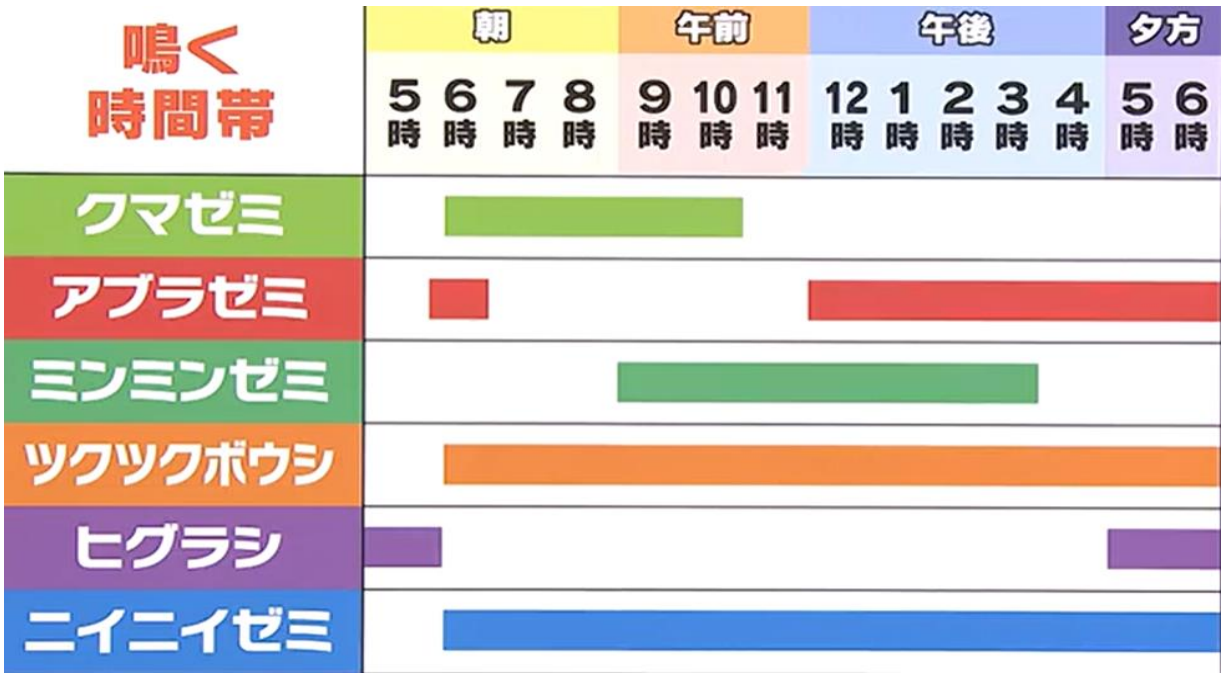
セミの鳴く条件は気温と明るさに左右されるとの事です。

〇セミの羽化を見たいときは〇

先ず、近くの公園などで、セミの抜け殻が沢山ついている樹を探します。そして。夕方に再びそこに行くと、穴から出て、樹に登ろうとする幼虫を発見できることが多いとのこ

とです。是非、試してみてください。

〇時間によって鳴くセミが違ってくる！〇



（「昆虫食のセミたま　活動レポート　セミの種類によって鳴く時期・時間が違う理由」より）

大体の目安と考えてください。鳴いていないときは、樹に留まってじっとしているようです。クマゼミで見たことがあります。

〇セミの抜け殻をみつけたら・・〇

形や大きさ、触覚の長さなどで種類を、おしりの先端の形で雄雌を見分けますが、ここで全部紹介すると長ーくなってしまうので、

https://www.kodomonokuni.org/nature/summer/summer_semi2.html　や

https://nature-and-science.jp › cicada

などでご覧になるとよろしいでしょう　お勧めです。

●トンボを見分けてみましょう

前頁左よりコシアキトンボ♂（腰？の部分の白い帯がポイント）、ショウジョウトンボ♂（胸の部分の側面に筋がない）、中段左より、チョウトンボ♀（ひらひら飛ぶ）、オオシオカラトンボ♂（翅の付け根に黒い模様がある）、３段目左より、シオカラトンボの交尾（上がオス、下がメス）、クロイトトンボ♂（腹部先端の青色の形や場所で種類を区別）。トンボによって雌雄は色合いがかなり違います。また、羽化して間もない未熟な頃と成熟した頃でも色合いがかなり違う種類があります。

トンボの交尾は変わっています。オスの腹部の基部近い場所に副性器があり、オスは予めその部分に精子を入れておき、そこにメスが腹部先端の交尾器を差し込むことで、精子の受け渡しがなされます。一体どのような理由があって、このような形になったのでしょう？

●雨の日の猪高の森は・・下見をした日は雨がちの天気でした。晴れた日に見られる生き物は隠れていることが多いのですが、その代わり（？）湿気大好きな生き物たちが出てきます。

左はキセルガイの仲間
右はイセノナミマイマイ

この仲間は夜行性のこともあり、昼間の観察会では、頻繁に出会うことはまず

ありませんが、こんな日は出会うチャンスです。

左の画像で樹の幹に薄茶色の筋のように見えるのは、**オオミスジコウガイビル**。中国南部原産の外来種です。体長 30～100 ㎝にもなる大型種、体の真ん中位に口があり、ミミズやナメクジを食べます。

体を半分に切っても、それぞれが再生し 2 匹になるところは、同じ仲間の**プラナリア**と同様です。

頭はハンマーのような形をしています。（画像では下になっています。）同じ仲間はこの種以外にも日本にいますが、どれももっと小型です。

●こもれび池はウシガエルオタマジャクシとカダヤシだらけ！？

両種とも特定外来種で在来種を駆逐してしまいます。

外来生物法では、

特定外来種の　**「飼育・放流・運搬・譲渡・売買を禁止しています。」**

人の活動がある故に、外来種が持ち込まれ、問題を起こしています。

生き物を飼うときは、よく考え、たとえ在来種であっても、付近に逃がすことはせず、最後まで面倒をみましょう。

●きれいな虫こぶを見つけました。

左は**ナラハウラマルタマフシ**と思われます。
艶があって、堅い。
ナラハウラマルタマバチの寄生によるものです。
この時期、色々な虫こぶも発見出来ます。

下は近くの公園（守山区）にあった**イスノキエダナガタマフシ**。身近にきっとあります。探してみましょう。

【なごや生物多様性サマースクール 2022】
子どもたちにしてもらった事は次の３つ！
①アメリカザリガニを学んで、触っちゃおう！
②ガサガサ体験でどんな生き物が捕れるかな？
③ペットボトルで作った罠で捕れた生き物は？　　です。

①「アメリカザリガニのオスとメスは
ここが違うんだよ。」　　「それじゃあ、これはどっちかな？」

②「さあ、追い込み漁はじめるぞっ！」
子ども達にタモ網を構えさせて離れたところから獲物を追い込んで行く。
「もう少しだから、しっかり構えてっ！」　　「どうっ？入った？」「なんか、いるっ！」

③餌の入った罠をゆっくり引き上げる。
どの罠を引き上げるかは子どもたちに選ばせる。
「入っているかな？」　　「これだけ、捕れたよっ！」

●ザリガニの他にこんな生き物も捕れました

上段 2 枚は、**ヌマエビ**、下段左は**メダカ**、右は**モツゴ幼魚**です。

この他にも、**ナマズ、カダヤシ、スジエビ、マツモムシ、ミズムシ**などが捕れました。昨年、11 月に行った池干しの効果と思われますが、ブルーギルやウシガエルオタマジャクシは見られませんでした。ウシガエルの成体やミシシッピアカミミガメは他の日に確認されていますので、今後も注意して経過を観察していくようにします。

今回の捕獲は採取禁止の猪高緑地で特別に行ったものです。普段は許可されていませんのでご注意ください。尚、在来種はイベント後すべて池に戻しました。

●今回はこんなハプニングもありました！

自然観察をしているとほとんどいつも新しい発見やハプニングがあります。

残念ながら、捕れなかったウシガエルの代わり（？）に**オニヤンマ**が登場してくれました。イベント終盤近く、子ども達と保護者の方々が集まって観察している時のことでした。

カメラアングルもばっちりのところで長時間じっとしています。（ぶら下がってとまるのがオニヤンマの特徴です）

保護者の方々もワイワイ言いながら、スマホで撮るやら、カメラで撮影するやら・・。
何しろ、日本最大種のトンボです。（デカいっ！）

この後、子ども達には、持ち方を教えて、

一人ひとりに、そっと持たせます。初めて持つ子がほとんどで（当たり前です！）、「ちょっと怖いけど・・」の表情がありありと・・。
（オニヤンマさん、ありがとうございました。ご迷惑をおかけしました。ごめんなさいね！）

●そんなこんなで、心配していた熱中症やハチなどによる事故もなく、無事に終わることが出来ました。これを機会に子ども達だけでなく、保護者の方々にも自然により深い興味と関心を持っていただけたらと祈念します。

猪高緑地では毎月（8,12 月は休みです）第 4 日曜日

森の集会所集合　９：３０～　自然観察会を開催しています。

次回は　9 月 25 日（日）です。一緒に歩きませんか

「約束は、走らないこと・・・・。」

「そこらへん、いるんじゃない！？」